

2008 年国際衛生年に関連した環境省の取組について

1. 第 1 回アジア・太平洋水サミットについて

(1) アジア・太平洋水サミットの概要

アジア・太平洋地域の各国政府首脳及び国際機関代表者のハイレベルが参加し、水に関する諸問題について幅広い視点から議論を行うために、アジア・太平洋水フォーラム（会長：森喜朗元総理）等の主催により、12月3日から4日まで大分県別府市にて開催された。

2日間にわたり、「水の安全保障：リーダーシップと責任」という全体テーマの下、計10のセッションが開催され、熱心な議論が行われた。

(2) 2008 年国際衛生年の地域発進式における歓迎演説

衛生関係の分科会「衛生 - 2008 年国際衛生年に向けて」において、並木環境大臣政務官による日本政府代表としての歓迎演説が行われた。

並木環境大臣政務官は、我が国の持つし尿の徹底した衛生管理システムは国際的にも大きく貢献できるものであること、日本発の優れた技術であるし尿の徹底的な衛生処理システムや浄化槽の普及により生活排水対策の分野で貢献していきたいとしていること、等の発言を行った。

2008 年国際衛生年

故橋本元総理が議長を務めた国連「水と衛生に関する諮問委員会」の提言により、トイレや下水処理などの衛生分野における世界規模の取組を促し、水問題解決のための行動を起こす契機として、2006年に国連総会本会議において採択されたもの。衛生についての人々の意識を啓発し、必要なリソースを動員し、さらに全当事者が採るべき行動指針を示すことを目的としている。

(3) オープンイベントにおける浄化槽カットモデルの展示

水サミット会場内のコンベンションホールにおいて、浄化槽の実物大カットモデルやパネルの展示を行い、浄化槽の構造、機能等に関する情報について紹介を行った。

開催中、約300名の来訪者があり、浄化槽の構造等について、担当者との間で質疑が行われた。

主な質問の内容

- ・ どの程度の水質まで汚水を処理できるのか？
- ・ 処理水は再利用できるのか？
- ・ 設置にはどの程度費用がかかるのか？ 等



浄化槽カットモデルの展示の様子

2. 今後の取組

日本のし尿処理に関する経験を取りまとめ、3月6日に東京で行われる国際トイレワークショップなどの機会を捉えて海外に情報発信するとともに、海外地域の実情に合わせ、浄化槽の排水処理技術やし尿処理技術の適用方策の検討を進めて行く予定。

また、5月に神戸において行われるG8環境大臣会合と連動して開催される「環境フェア in KOBE」において、浄化槽の構造、機能等に関する情報について紹介を行う予定。